製品安全データシート

製品名	**Vestakeep 4000P**
バージョン	4
作成年月日	2009年8月20日
改訂年月日	2009年12月8日

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	ﾍﾞｽﾀｷｰﾌﾟ
グレード名	4000P
会社名	ダイセル・エボニック株式会社
住　所	〒163-0912　東京都新宿区西新宿2丁目3番1号　新宿モノリス12階
担当部門及び連絡先	東京本社　エンジニアリングポリマー営業部　Tel 03-5324-6331　Fax 03-5324-6336 大阪営業所　エンジニアリングポリマー営業部　Tel 06-6342-6712　Fax 06-6342-6718
緊急連絡先	東京本社　エンジニアリングポリマー営業部　Tel. 03-5324-6332 網干工場　品証・製品安全部　Tel. 079-273-3872
MSDS作成	〒671-1281　姫路市網干区新在家1239　網干工場　品証・製品安全部 Tel 079-274-3872　Fax 079-274-3927

2. 危険有害性の要約

最重要危険有害性	
人の健康に対する有害な影響	パウダー状で、粉塵となって吸入する場合がある
環境への影響	特記すべき影響はない
物理的および化学的危険性	消防法の指定可燃物。粉塵が発生した時は、粉塵爆発の危険性がある。加熱されたポリマーによる火傷に注意。
その他	GHS分類では区分外

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
一般名	ポリエーテルエーテルケトン

成分および含有量	（名称）	（含有量%）	（CAS番号）	（官報公示整理番号）
	ポリエーテルエーテルケトン	95－100	31694-16-3	(7)－2144
	その他安定剤など	0－5		

危険有害成分

労働安全衛生法に基づく閾値以上含有する全ての成分	含有せず

4. 応急処置

吸入した場合	溶融物からでるガスを吸って気分が悪くなった場合は、直ちに新鮮な空気のある場所に移し回復を待つ。回復しないときは医者の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	溶融物の場合はただちに清浄な水で冷やす。皮膚上の固まった樹脂を無理に剥がさない。火傷があれば医師の診断を受ける。
眼に入った場合	溶融物の場合は、ただちに清浄な水で充分に冷やすと同時に洗浄し、コンタクトレンズをしていれば外し医者の診断を受ける。通常の固体の場合は、ただちに清浄な水で洗浄し、不快感などの異常が残るようであれば医者の診断を受ける。
飲み込んだ場合	直ちに吐かせる。もし大量に飲み込んだり、不快感が残る場合は医者の診断を受ける。

5. 火災時の処置

消火剤	水、泡沫消火剤、粉末消火剤、炭酸ガスなどのいずれの消火剤でも使用が可能。
消火時の注意点	不完全燃焼すると、炭酸ガスと水の他に有毒なガス（CO、フェノール等の芳香族系有機ガス）が発生する恐れがある。消火の際は防毒マスクや保護具を使用すること。

6. 漏出時の処置

漏出時の処置	通常状態では速やかに、回収して処分する。
人体に対する注意事項	道路や床にこぼしたときは、すべる危険性がある。
環境に対する注意事項	排水等から流出すると、海洋生物、鳥類が摂取するなど、環境汚染の原因となる
除去方法	箒や掃除機などで全量回収する。必要に応じて排水口などに堰を設けるなど漏出を防ぐ。
二次災害防止	回収したものは、廃棄・処分するまで、容器に保管する。周りの着火源となるものを取り除く。

7・取扱い及び保管上の注意事項

取扱い

技術的対策	常温では引火爆発の恐れはないが、消防法の指定可燃物に分類されるので、使用時など、近くで火気をみだりに使用しないこと。 床上にこぼれた粉体等は、放置すると足元が滑って転倒を招く恐れがあるので、速やかに清掃除去すること。
注意事項	成型作業では過熱溶融によって発生するガスを排出するための有効な局所排気装置などを設置し、ガスを吸入しない様にすること。 高温になった樹脂には、直接触れないようにすること。 加工機内に、樹脂を高温の状態で長時間滞留させないこと。 静電気を帯びやすいので、必要に応じて適切な静電気除去対策を取ること。
火災・爆発の防止	二次加工等で粉塵が発生した時には粉塵爆発に対する予防を講ずること。
安全取り扱い上の注意事項	保管する容器・包装を破損させないこと。 包装袋を鋭角なものと接触させたり、落下させたりしないこと。 樹脂の入った包装袋はできるだけ丁寧に扱い、落下させたりして破損しないこと。

保管条件

技術的対策	熱・発火源から離れた場所に保管すること。
保管条件	消防法の指定可燃物、合成樹脂に分類されており、帰属する市町村の条例等に従って取り扱うこと(消火設備、屋内貯蔵取扱所など)。 高くに積み上げると荷崩れを起こす危険がある。
安全な容器・包装材料	特に指定はない。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	成形加工で高温加工するときには、ガスが発生する可能性があるので、作業環境を得るための局所排気装置などを設置すること。
管理濃度	設定されていない。
保護具	必要に応じ適宜、次の保護具を着用する。
呼吸器用保護具	高温のガスを吸入する可能性のある場所で作業する時は、有機用ガスマスクの着用が望ましい。添加剤等を含めて粉塵が発生する可能性のある場所で作業する場合は、防塵マスクの着用が望ましい。
手の保護具	保護手袋。溶融した樹脂を扱う時には、火傷防止のための耐熱手袋着用のこと。
眼の保護具	保護眼鏡。溶融した樹脂を扱う時には、火傷防止のための保護眼鏡、或いはゴーグル着用のこと。
皮膚および身体の保護具	溶融した樹脂を扱う時には、火傷防止のため長袖の衣服を着用のこと。

9.物理的及び化学的性質

外観	
物理的状態	固体
形状	粉末
色相	自然色
臭気	わずかに樹脂特有の臭気あり。
pH	測定項目に該当せず
融点	340-343℃(DSC法)
燃焼性	
引火点	該当せず。
燃焼または爆発範囲	粉塵爆発の危険性がある。 爆発下限界濃度: 粉塵濃度25mg／ﾘｯﾀｰ 以上で着火爆発の可能性がある。 爆発限界酸素濃度: 酸素濃度12%以下では爆発しない。
自然発火温度	575℃以上 (DIN51974)
密度	1．2～1．4 g/cm3
水溶解性	不溶

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の扱いにおいては常温で安定。
危険有害反応可能性	
避けるべき条件	加熱して成形加工する時に450℃で30分以上滞留させない。
混融危険物質	特になし。
危険有害な分解生成物	不完全燃焼した時に、有害なガス(一酸化炭素、芳香族系有機ガスなど)がでる可能性がある。

11. 有害性情報　現在までのところ有害性についての知見はない。

急性毒性
皮膚腐食性
眼に対する重篤な損傷/刺激性
呼吸器感作性/皮膚感作性
変異原性(生殖細胞変異原性)
発がん性
生殖毒性
特定標的臓器/全身毒性－単回曝露
特定標的臓器/全身毒性－反復曝露
吸引性呼吸器有害性

12. 環境影響情報

生態毒性	知見なし
水生環境有害性(急性)	知見なし
水生環境有害性(慢性)	知見なし
残留性/分解性	知見なし
生体蓄積性	知見なし
土壌中の移動性	知見なし

13. 廃棄上の注意:

残余廃棄物および汚染容器・包装	「廃棄物の処理および清掃に関する法律」(廃掃法)の産業廃棄物、廃プラスチックス類に該当する。廃棄物は所属する地方自治体の条例などに従って処分すること。焼却処理する時は、管理された焼却設備を用いて、廃掃法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法に沿って処理すること。 焼却時には有毒なガスが発生する可能性があるので、換気に注意すること。

14. 輸送上の注意

輸送に関する国際規制に関するコード及び分類に関する情報	該当せず。
輸送に関する国内規制	該当せず。
輸送の特定な安全対策および条件	破袋しない様に乱暴な扱いをしない。水濡れに注意する。 荷崩れいないように取り扱うこと。 もし破袋して粉体が飛散した場合は、滑って転倒しないように注意し、全量を回収する。

15. 適用法令

化学物質等に適用される法規制

廃棄物の処理および清掃に関する法律	産業廃棄物、廃プラスチック類に該当
消防法	難燃性合成樹脂(酸素指数26以上)
毒物劇物取締法	対象成分を含有せず
労働安全衛生法	含有せず
化学物質排出把握管理促進法	(PRTR法) 該当せず
化審法	登録済み化学物質
安全保障貿易管理制度	該当せず

16. その他の情報

引用文献	JISZ7250:2005化学物質安全データシート(MSDS)-第一部:内容および項目の順序 樹脂ペレット漏出マニュアル:日本プラスチック工業連盟発行、1993年
制約事項	本製品安全データシートは現時点における当社の知見に基づき、安全性確保の観点から記載されたものです。従ってこの安全データシートに記載されている内容が、本製品の特性を保証したものでない旨をあらかじめご承知おきください。
記載事項内容の問い合わせ	ダイセル・エボニック株式会社　網干工場　品証・製品安全部 電話　079-274－3872